

松浦寿幸研究会

—国際貿易・直接投資・地域経済学・イノベーション・産業組織論—

1. 研究分野

(1) 教員の専門分野

企業・個人・製品レベルのマイクロデータを用いてグローバリゼーションが企業・雇用・イノベーション・地域経済に及ぼす影響に関する実証研究を行っている。国内外の政策シンクタンクとの共同研究や欧州・アジア各国の研究者との共同研究にも積極的に取り組んでいる。詳細は教員の WEB サイト (<https://sites.google.com/site/matsuuratoshiyuki/>) を参照のこと。

(2) 研究会の内容

世界が一つの競争市場となった今日、一国の競争力を高めるためには国際的な都市間競争に打ち勝てる大都市を持ち、その競争力を改善していくことが重要である。また地方都市を再生するためには AI や IoT の活用、そしてこれらの新技術を開発・応用するイノベーション産業の育成が求められている。本研究会ではこうした諸問題を題材に、国際経済学・空間経済学・産業組織論・経営経済学を基盤とする理論・実証の関連文献を輪読し、統計ソフトを用いた実習を通じて基礎的な実証分析の方法を習得する。より具体的には、①ものづくり・研究開発拠点の立地・移転の要因、②イノベーション産業の形成メカニズム、③企業組織とイノベーション人材、および地域労働市場④機械学習・深層学習、AI が都市やイノベーションに及ぼす影響、などのトピックを扱う予定である。

ここ数年、政策評価（あるいは企業戦略）の指針として、統計データによる「実証分析に基づく政策形成」（あるいは「実証分析に基づく経営手法」）への関心が高まっている。こうした評価には因果関係の特定が重要であり、関連するテキストも多数刊行されつつある。本研究会では、こうした分析手法の理解を深め、学生の自主的な研究プロジェクトにつなげられるよう支援する。より詳細は教員の WEB サイトを参照されたい。

2. 学生への要望

研究会の活動を優先して取り組める人を募集する。研究会は少人数で学ぶことができる貴重な機会であり、各人が積極的に取り組むことで、研究会の活動をより有意義なものすることができるからである。本研究会では、データ分析を中心に据える。大規模データへの利用が容易になった現在、様々な新しい分析手法（機械学習やデータの自動収集、文字列解析等技術を含む）などが開発されている。新たに利用可能となったデータや分析手法を応用し、国際社会における諸問題を分析することに関心をもつ学生を歓迎する。そのほか、社会に出てから有用なスキル、たとえば英文資料の読解、プレゼンテーションや討論などのスキルの向上も図る。また、幅広い見識を身に着けるため、参加者の要望に応じて企業訪問や政策担当者へのヒアリング、他大学との交流など幅広い活動を行っていく。こうした活動への積極的な参加も期待される。

3. 選考について

1 募集人数

10名程度

2 選考内容

面接・レポート・成績表による

3 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受入れの可否：日本語で参加可能なら可

4 選考基準

面接 40%、レポート 30%、成績 30%